

症例検討会

平成 25 年 10 月
八代店

イトラコナゾールの副作用と薬物相互作用について

爪白癬、体部白癬の治療にイトラコナゾールカプセルが使われています。イトラコナゾールは、多岐にわたる薬物との相互作用が問題になることが多く、日常業務の中で最も注意を払わなければならない薬物です。その副作用と相互作用について検討しました。

男性 70 代

高血圧、高脂血症、高尿酸血症で内科受診中

Rp.) フェブリク錠 10mg 1 T、アイミクス配合錠 LD 1 T

この患者は、皮膚科で足の親指の爪白癬の治療を受けていました。

下記の経過を経てイトラコナゾールのパルス療法にきりかえられました。

	皮膚科処方		内科処方
3/12	Rp.)アスタットクリーム 1%10 g アスタット外用液 1%10ml		
6/26	Rp.)イトラートカプセル 50 2 C 分 1 朝食直後 3 0 日分 アスタットクリーム 1%10g アスタット外用液 1%10ml		
7/29	パルス療法 Rp.)イトラートカプセル 50 8 C 分 2 朝夕食直後 7 日分		
		8/13	むくみ Rp.)ダイアート錠 60mg 1 T 分 1 朝食後 14 日分

8/27	パルス療法 Rp.)イトラートカプセル 50 8 C 分2 朝夕食直後 7日分	8/27	定期処方 Rp.) フェブリク錠 10mg 1 T アイミズ配合錠 LD 1 T 分1 朝食後 30 日分
		9/9	むくみ 特に顔 Rp.)ダイアート錠 60mg 1 T 分1 朝食後 7日分
			県総合医療センター受診
		9/26	定期処方 Rp.) フェブリク錠 10mg 1 T アムロジピン OD5mg 1 T 分1 朝食後 1 4 日分
		10/10	血圧、心電図異常なし Rp.) 前回 Do 処方 1 4 日分

この症例では、イトラコナゾールの血中濃度が C_{max} に達するところに、むくみで内科を受診しており、副作用であるうっ血性心不全による浮腫が疑われます。

*パルス療法におけるイトラコナゾールの血中濃度の経時変化は、1 週間の投薬終了日に C_{max} に達し、休薬して次の投薬が始まる前になってようやく検出限界以下となる。約 3 週間の休薬期間中も、薬剤投与中と同様に相互作用に留意する。

*イトラコナゾールの重大な副作用

うっ血性心不全、肺水腫
肝障害、胆汁うっ血、黄疸
中毒性表皮壊死融解症
アナフィラキシー様症状

この患者は、肝機能悪化のため、イトラコナゾールによる治療は中止されました。
むくみの症状については、その後内科医からの紹介で県総合医療センターを受診され、検査の結果心房細動の診断があり、イグザレルトの処方依頼がありました。イトラコナゾールとの併用は禁忌であることから疑義照会し、休薬期間が終了するまで処方を延期するとの回答を得ました。イトラコナゾールと併用できる薬として、エリキュースを提案しましたが、イグザレルトを処方したいとの返答でした。その後、本人が服用を希望せず、イグザレルトは処方なしで現在に至っています。